

ヨコトリツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!
THE SECOND SEASON Vol.04
[通巻16号]

May
2017



参加アーティスト 第一弾発表!

「ヨコトリツ!(Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「ハマトリツ!」による手作りのフリーペーパーです。「トリツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもしもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものを伝えたいということで名付けました。ハロウインの決まり文句「Trick or Treat!」「トリックオアトリート!」をお菓子をくれないヤイタズをする?から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指します。

ヨコハマトリエンナーレ2017「鳥と星座とガラパゴス」
会期: 2017年8月4日(金)~11月5日(日) ※第2・4木曜日休場 | 主会場: 横浜美術館/横浜赤レンガ倉庫1号館 | 公式Webサイト: <http://www.yokohamatriennale.jp/>

ハマトリツ!はヨコトリ2017に向けて活動中!

トリエンナーレ学校2017 vol.12
【ヨコハマトリエンナーレ2017】
アーティスト
宇治野宗輝と語る

ハマトリツ!ではアート好きに限らず、さまざまな方向性に関心のある人たちが集まって活動しています。サポーター活動に参加して、ヨコトリ2017と一緒に盛り上げていきませんか?!

・自主活動 7つのグループに分かれ、ヨコトリ2017を盛り上げるオリジナルイベントを自分たちで企画実践していきます。

・プログラム活動 来場者のおもてなしをするビクターサービスセンターの運営や、アーティストの作品制作のサポートなど本展に合わせて展開していく活動です。

トリエンナーレ学校は、横浜トリエンナーレと一緒に盛り上げるボランティア(=サポーター)活動の一環として2005年から始まりました。様々なテーマを持つ講座に参加することで、横浜トリエンナーレをはじめ、国際展やアート、創造都市などに関する知識を楽しく身につけていく学校です。サポーター登録のない方も参加可能です!

6.28 時間 19:00~21:00(開場18:30)
(wed)
参加費 会場 横浜美術館レクチャーホール
無料

サポーター活動の詳細はハマトリツ!公式ウェブサイトをチェック!
サポーター登録をすると最新情報をメールニュースで受け取れます!



皆様の声をお寄せください

ヨコトリツ!では、皆さんの声を紙面作りに生かしたいと考えています。ぜひご意見ご感想をお寄せください。いただいたご意見ご感想は、一部を紙面、Webに掲載させていただきます。

「読者の声」投稿ページはこちらから。

【Web】<http://bit.ly/readers-voice>

投稿ページは暗号化通信を用いているのでセキュリティ上の心配はありません。

または【メール】yokotreats-editors@googlegroups.com

ご意見に加え、ペンネーム、性別、年代をご記載いただければ

あわせて掲載します。

QRコードからも投稿ページをご覧いただけます。



横浜トリエンナーレサポーターHama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリツ!」THE SECOND SEASON Vol.04 [通巻16号] 第2版
●企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター ハマトリツ! 情報発信G (青木邦彦 / 上田良寛 / 木村彰一 / 鏡智代 / 中島修一 / 平本晶子 / 松本取/渡辺よう子) ●カバーアート: 上田良寛 ●発行日: 2017年5月28日 ●発行元・お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局 (横浜市西区みなとみらい3丁目4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内 TEL: 045-228-7816 MAIL: info@yokotorisup.com) ●ハマトリツ!(横浜トリエンナーレサポーター)公式WEBサイト: <http://www.yokotorisup.com>

次号予告 ヨコトリ2017開幕直前 高まる期待! 2017年7月 発行予定

ヨコトリツ!

ハマトリツ! 自主活動 グループ近況報告

活動支援

「ポップ宣言」から早3カ月。活動支援グループは、ポップという命題に挑み続けます。一つ、ハマトリツ!のあれこれを優しく伝える「魁!平野塾」(ドドン!)二つ、ヨコトリを支える様々に注目していくサロン(ドドドン!)入口を広く!間口を全方向へ、影なるものに光を!刮目してお待ちを!(平野)

時をかけるヨコハマ

4月23日には案内書「野毛山を辿る」のベータ版が完成しました。他に「山手本通りを辿る」「山手外周を辿る」も校正段階です。会期中には会場間をつなぐルートでの路上観察も考案中です。大政奉還から150年の今年、見慣れた横浜の街にあらためて「歴史」という時間軸を重ねて歩いてみませんか?(三井)

観る・学ぶ

4月、本展中に「おしゃべり鑑賞会」と「ヨコトリ検定」を実施することを発表。現在、グループ目標の「来場者が現代アートと親しくなれること」、「ヨコトリがワクワクした体験の記憶となること」に向けて活動内容を練っているところ。いっしょに検定問題を作成してみたい方、現代アート好きの方、募集中!(山岸)

料理部

先日、大岡川桜まつりで、料理部の第1弾活動となる「アマザケトリエンナーレ2017」を開催しました(詳細は別項)。今後も「食」を通じて、ヨコトリに親しみやすさを感じてもらえるような宣伝活動や、料理を作るイベントを行う予定です。現在は「横浜らしい」料理を模索中。成果をお楽しみに!(星)

アートアクセシビリティ

アートアクセシビリティグループは、美術館に来ることや現代アートに対しての、精神的・身体的なハードルを和らげるため、以下の活動に取り組みます。
1. 真つ暗闇体験の検討(イベント報告欄もご覧下さい!) 2. 障がい者や子供などへの、宣伝活動・イベント開催・情報提供ご協力募集中です!(脇川)

遠足

遠足グループです! 9月に札幌国際芸術祭2017へ遠足に行きます。僕は旅のテーマを「他の芸術祭のサポーター活動を知り、ハマトリツ!の活動に活かす。」に決めました。ジンギスカン食べます、スープカレーも食べます。横浜発、人と出会ってアートを巡る札幌の旅、計画中です。(北野)

情報発信

Here we go! Yo! Yo! Yo! Yo!
出展作家 ついに発表!
本号特集で 予習しよう!
紹介記事の寄稿 皆とうもありがとう
載せきれなかった分は 待て次号!
開幕前にオーバーヒートの情報発信G
不安は吹き消せTake It Easy!(MCウエダ)

REPORT

THE SECOND SEASON Vol.04 2017/5/3-5 全国都市緑化よこはまフェアにハマトリツ! ブース登場

謎の生物がカラパゴスの大進化

第33回 全国都市緑化よこはまフェア 里山ガーデン会場にヨコトリ2017宣伝ブースを出しました。期間は5月3日(水・祝)から5月5日(金・祝)までで、そのうち3日と5日は折り紙と缶バッジ作りのワークショップを行いました。

折り紙ワークショップ「ほくのそうそうする最強のガラパゴス」では、皆さんに折っていただいた折り紙をカメラの甲羅部分につけていきます。謎の生物が次第に進化していく姿をご覧ください。この作品はヨコトリ2017会期中に横浜美術館ビクターセンター内に展示予定で、そのことが意外と多くの人の関心を引きつけました。

缶バッジワークショップ「鳥か屋座がガラパゴス」では皆さんに絵を描いていただき、缶バッジにしてお渡しします。缶バッジ作製の工程を説明しながら実演すると、子ども達は興味津々。最後にできた缶バッジを手にしてみんな笑顔でした。

両日、たくさんのおキッズで、大盛り上がり!! お子様や家族連れだけでなくご年配の方にも数多くご参加いただき、幅広い世代の方に横浜トリエンナーレをアピールできたと思います。

里山ガーデンは、風が吹き抜けて気持ち良く、時々やってくるパークトレインや花の香り、いやされました。(平本/青木/上田)



折り紙

2017/4/1, 2 大岡川桜まつりに出店!



「アマザケトリエンナーレ2017」
三年に一度の祭典にふさわしく、自主活動グループ・料理部が持っている知識を存分に生かして開発した「甘酒・ぜんざいMIX」(小豆)を合わせた上にとさらしに白玉やジャム・スッピンなどの12種類のトッピングを重ねるという新感覚のドリンクの組み合わせはなんと4000通り! いやほんとおいしから!! この強力なメニューを得た「アマ」トリツ!達は、時に街行く人をキャッチし、時にサンドイッチスタンドとなる2日間でも販売し、200人以上の黄金町フランスたちに宣伝ブラスを渡すことに成功しました。この調子でハマトリツ!達はヨコトリ本展まで駆け抜けます!(はしこ)

ガイド活動プログラム研修会 聴講レポート

4月18日、ヨコハマトリエンナーレ2017の参加アーティストの第一弾が記者発表されました。これを受け、ヨコトリ2017の見どころ紹介を担当するトーカーの研修も本格化します。4月23日、そのトーカー候補生に向けて、コ・ディレクターの一人で主にアーティスト的な部分を担当している三木あき子氏のレクチャーがありました。

レクチャーは、今回展の特徴、タイトルの背後にあるテーマ、第一弾アーティスト26組1プロジェクトの紹介と濃密な内容でした。このレクチャーを聴講させていただき、お話を伺って理解した内容を筆者の視点で整理・再構成してお届けします。(情報発信グループ 上田)



レクチャーの様子

「接続性」と「孤立」

今回のテーマは「接続性」と「孤立」です。三木さんのお話から、様々なレベルでこの二つが混在する状況があることがわかりました。従来の枠組みを超えたいというネットワークが拡大し接続性が増す一方、保護主義、排外主義という孤立の状況が頭頭してきます。コミュニケーションで新たなつながりが生まれましたが、小さなコミュニティで閉じる「島宇宙」という状況もあります。今回ヨコトリ2017では、このような状況に関して様々な角度から考えるきっかけになりそうです。

難民問題

「孤立」を考えた時に今真っ先に浮かってくるのは難民問題だといえるでしょう。アイ・ウェイウェイは、昨年、ギリシアのレスボス島に流れ着いた難民たちが実際に使った大量のライフジャケットを、ベルリンの劇場の正面の6本の円柱に巻き付けた作品を発表しました。横浜美術館にも正面に2本の円柱があり、これを再現するそうです。命を賭して逃げ出してきた難民のことを思い起こさせる展示になると思います。

オラファー・エリアソンのアーティストリック・ワークショップ「Green light」も難民問題を扱います。緑の光というのは青信号、希望の光の象徴だそうです。これはリサイクル素材とLEDを使った構造体で、その構造体を組み合わせてさらに大きな構造体を作ることができます。今回、作品の展示のほか、制作のワークショップを行うそうです。

国家・国境

国というものの意味を考えさせる作品も集まっているようです。柳幸典には、砂絵でつくった世界の国旗を蟻が崩していく作品があります。今回、この「日の丸」版のほか、憲法9条をネオンサインで表現する作品もあわせて出るとのことです。「日本」という国を意識することになると思います。

アレックス・ハートリーの「Nowhereisland」は氷河の中に見出した島を国家に見立てた作品。その島は分割されて今は存在しません。今回はその記録をトラックに乗せた「移動大使館」が展覧されるそうです。移動大使館によって世界を再びつなぐ意味があるのかもしれませんが。

接続性

レクチャーを聞いていると、「接続性」を想起させる作品が多くあることに気がつきました。カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニャによる共同制作 Exquisite Trust (絶妙な信頼) は、一人が描いた作品の1cm幅だけ見せて次の人が描き始めるもの。4人の順序を変えた複数作品が出るのとことと、それによって「絶妙な信頼」も様々な形をとるのではないかと期待しています。

ラグナル・キャルトンソンの「The Visitors」は、複数のスクリーン上のそれぞれの場所で、ヘッドフォンから聞えてくる他の人の演奏の音を頼りに演奏している人たちが映し出されます。国際展の氾濫の中で

今回参加アーティストは今後の追加発表を含めて約40組と、他の国際展と比べて少なくなっています。「あえて厳選し、それぞれの作家が複数作品で個展のような形をとって、それらが集まってまるで星座を形成するような展覧会にする」、また、「近年国際展や芸術祭が増え続ける中で、数字ばかり追うとアーティストも消費されかねない。そうした状況に対する疑問もある」とのことです。それぞれのアーティストの作品をじっくり鑑賞しながら、より深く「接続性」と「孤立」に思いを馳せる、そんな国際展になるのではないかと、今からわくわくします。

ヨコトリ2017 このアーティストに期待!

サポーターの個人的おすすめ!

発表されたヨコトリ2017参加アーティストの紹介記事をサポーターに募集したところ、熱い思いを胸に抱いた人たちが投稿いただきました。文章に込められたその思いをお楽しみください。この企画、次号にも続く予定です。

柳幸典

再生した工場、崩れゆく国旗
by 木村彰一

近年、里山型の芸術祭では、学校や家一軒を丸ごと使った作品も少なくない。大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2006で制作されたクリスチャン・ボルトタンスキーとジャン・カルマンの「最後の教室」は、小学校内部にストーリー性のある作品群が設置されている。

対して瀬戸内海の犬島精錬所美術館は、廃止になった工場を使ったものだ。三分一博志による建築にまず圧倒されるが、本棟内部の柳幸典の作品群も秀逸だ。三島由紀夫をテーマに、空間ごとに趣の異なる、舞台装置のような作品が展開される。その中には越後妻有の「最後の教室」と共通して、細長い通路を利用した作品がある。どちらも通路を通り抜けた先には、異世界のような作品が待っている。

柳幸典の作品は「サ・ワールド・フラッグ・アント・ファーム」も印象深い。砂で描いた国旗の中を蟻が通り、国旗を崩していく様子を表現した作品だ。国家の存在の危うさを表現しているとも取れるが、個人的には今なお中東などで繰り返される紛争をイメージする。そして例えば北朝鮮による核実験のニュースを見て、怖いねと言いつつどこか他人事を感じている我々に、戦争の根源的な不安や恐怖を突きつけるように思う。

カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニャ

4人のコラボレーションに期待
by 原田貴己

この4名の名前を聞いて作品を連想できる方だけでなく、越後妻有や瀬戸内、岡山の芸術祭に出かけたことがある方なら、実は作品を「体感」していた、という方もおられるのではないかと思います。

カールステン・ヘラーには越後妻有里山現代美術館「キナール」に常設展示されている、散髪屋のサインポールに吸い込まれたような作品があります。トビアス・レーベルガーは越後妻有・松代地区にある森の中の図書室や瀬戸内海・豊島にある内装が綿花や水玉のカフェを制作しました。アンリ・サラは同じ豊島の古民家に自動演奏の楽器が鳴り響く作品を制作し、ヨコハマトリエンナーレ2017構想会議のメンバーでもあるリクリット・ティラヴァーニャは岡山城内に鐘撞りの茶室を制作しました。

これらの作品は外観や周りの環境からは想像できない、行ってみて初めて分かる意外性に満ちていました。三木あき子氏のレクチャーで作品について触れられたようですが、どんな空間や作品となるのか、何かイベントが起こる仕掛けがあるのか…コラボレーションに期待です!

風間サチコ

ざわつかせる作家、風間サチコ
by 山岸泉

風間サチコの作品との出会いは昨年10月、横浜市民ギャラリーあざみ野で開催された「悪い予感のかけらもないさ展」。展示の一つ《存在の同じ家》シリーズは、モデルハウスの上空に暗雲立ち込めた不穏な空気の版画作品。パブル崩壊後の先行き不安な経済の日本にあっても、青空のもと夢のようなマイホームの写真が写った住宅販売のチラシを元に制作されたとのこと。ハッピーを反語めいた言葉で表したタイトル通りの、ざわざわと不吉な予感がしたのを記憶している。

風間の作品の特徴は、黒一色摺り(そういえば、ネット上の風間はいつも黒い服を着ている)、一点摺りの木版画で、社会を風刺し、過去と現在を重ね合わせた独自の世界観を持っている。現代社会に対する辛辣なメッセージとも受け取れるかもしれない。

4月19日付の風間のブログ*によれば、ヨコトリ2017のために、旧作の《黒い花電車》と、新作の《グレート・ダズル・ウォー(第一次幻惑大戦)》幅3m以上の大作を準備中とのこと。8月4日から、どのような切り口で私たちがざわつかせてくれるのか、今からどうにも落ち着かない。

*kazamasachiko.com

Don't Follow the Wind

「みえないもの」を想像する力
by 高砂理恵

Don't Follow the Wind (以下DFW) は、アーティストのChim↑Pomらが発起人となって2015年3月11日から開催されている国際展で、ヨコトリ2017の参加作家でもあるアイ・ウェイウェイさんをはじめ、宮永愛子さんと小泉明郎さんら国内外12組のアーティストが参加しています。でも、彼らの作品を「みる」ことを楽しみにしていると、その期待は裏切られるかもしれません。DFWの開催場所は福島第一原子力発電所周辺の帰還困難区域で、封鎖が解除される日まで「みることができない」国際展なのです。

過去には美術館を「ビジターセンター」としたサテライト展が開催されたことがありますが、作品が「存在する」ことは分かります。ヨコトリ2017にも「ビジターセンター」が現れるのでしょうか? 様々な作品を「みる」ことを楽しみに訪れるヨコトリの中で「みることができない」ものに想像力を働かせる「体験」をすることになるのかもしれない。

なお、展覧作品は未発表ですので、ここで紹介されている作品が出品されるとは限りません。

参加して頂いた方の感想です。
いざ対象物を渡され触り始めると、形を重く固さ、表面の質感や粗さ、温度なども手から伝わり、目に入ってくることで新鮮な驚きで満たされていく感じが、楽しかったです。(青木)



2017/4/15 アートアクセスピリテイグループ 真つ暗闇体験
真つ暗闇体験は、「観る」だけではない美術作品の楽しさを発見するための企画です。本展に向けてハマトリーツ!メンバー向けの体験会を4月15日(土)に行いました。参加者は目隠しをしてみたり、立体物を触ってその形を粘土で再現してもらったり、立体物に何度も触れ、集中して作業されていました。その後目隠しを外して立体物と自分の作った作品を肉眼で確認しました。皆様が驚きと共に様々な感想を頂きました。私達も多くの事に気づかされた。視覚に頼らない美術鑑賞の可能性を感じました。この体験を活かして、この企画を更に改良していく予定です。(口羽)

2017/3/26 「観る・学ぶ」グループ おしゃべり鑑賞会体験記
みなさんは美術館や芸術祭を観に行くと、心を動かされた作品や、よくわからずモヤッとした気持ちで誰かに話したくなりませんか? 友人・知人と観に行っても、じっくり感想を語り合うことってなかなかありません。おしゃべり鑑賞会とは、観る・学ぶグループの「おしゃべり鑑賞会」は作品を観た人が集まって感想を共有する企画。これまで2回開催された。2回とも参加しました。誰れも気軽に参加でき、模造紙や付箋を使いながらおしゃべりしました。最後はテーブルごとにまとめた発表。自分とは違った作品の見方をする人がいて、中にはとても気づかぬような細かい点まで深く鑑賞できました。この企画に参加したからは、美術館や芸術祭でも感想を共有する場を作れないかなあ、と思う。実際に観る・学ぶグループでは、ヨコトリ本展で来場者が参加するおしゃべり鑑賞会を考案中。ぜひあなたも感想をおしゃべりしにお立ち寄りください!! (木村)

サポーター活動トピックス